

(様式第 10)

2 昭大病発第 24 号
令和 2 年 9 月 28 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 昭和大学
理事長 小口 勝

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 1 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒142-8555 東京都品川区旗の台一丁目5番8号
氏 名	学校法人 昭和大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

昭和大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台一丁目5番8号 電話 (03) 3784-8000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
<input type="checkbox"/> 1 呼吸器内科	<input type="checkbox"/> 2 消化器内科	<input type="checkbox"/> 3 循環器内科	<input type="checkbox"/> 4 腎臓内科
<input type="checkbox"/> 5 神経内科	<input type="checkbox"/> 6 血液内科	<input type="checkbox"/> 7 内分泌内科	<input type="checkbox"/> 8 代謝内科
<input type="checkbox"/> 9 感染症内科	<input type="checkbox"/> 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="checkbox"/> 11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科 2性病科 3臨床検査科 4病理診断科 5歯科口腔外科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	815床	815床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	671人	114.4人	785.4人	看 護 補 助 者	14人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	5人	人	5人	理 学 療 法 士	15人	鍼	58人
薬 剤 師	73人	1.8人	74.8人	作 業 療 法 士	8人		人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	人	検査	人
助 産 師	60人	0.6人	60.6人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	943人	3人	946人	臨 床 工 学 士	22人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	12人
歯 科 衛 生 士	2人	人	2人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	107人
管 理 栄 養 士	7人	人	7人	診 療 放 射 線 技 師	55人	その他の職員	20人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。(2020年10月1日現在)
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数 (2020年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37人	眼 科 専 門 医	1人
外 科 専 門 医	29人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	2人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	18人	脳 神 経 外 科 専 門 医	15人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整 形 外 科 専 門 医	25人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産 婦 人 科 専 門 医	23人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	216人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(相良 博典) 任命年月日 令和 2年 4 月 1 日

平成 27 年 4 月 1 日～現在 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	632.5人	0人	632.5人
1日当たり平均外来患者数	1,344.4人	42人	1,386.4人
1日当たり平均調剤数			5,449.3剤
必要医師数			146.3人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			68.1人
必要(准)看護師数			361.1人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	664.2m ²	鉄筋コンクリート	病床数	ICU 16床 CCU 5床 救急ICU 15床 救急CCU 5床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 71.89m ² [移動式の場合] 台数 4台(テント)			病床数	6床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 22.7m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	51.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学検査装置(BM6010)			
細菌検査室	14.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置(BACTEC-FX)			
病理検査室	91.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	97.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台・冷蔵庫・光触媒環境浄化装置(SSC-75hi-Y)			
研究室	20243.31m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	5339.77m ²	鉄筋コンクリート	室数	16室	収容定員	2,593人
図書室	1525m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	350,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	92.5 %	逆紹介率	65.0 %
算出 根拠	A：紹介患者の数			20,722 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			18,025 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			4,936 人
	D：初診の患者の数			27,729 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理または法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院 病院長		医療に関する学識経験者	有・無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がIB期以上及びIIB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がIA2期以上及びIIB期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	0人
水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ヘーチエット病	45
2	筋萎縮性側索硬化症	8	57	特発性拡張型心筋症	14
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	1	60	再生不良性貧血	28
6	パーキンソン病	54	61	自己免疫性溶血性貧血	8
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	65
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	6
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	15	66	IgA 腎症	20
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	13
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	21	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	6	69	後縦靱帯骨化症	16
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	20
17	多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	2
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	5	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	14	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	9
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	30
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	7
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	13
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	4	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	34	90	網膜色素変性症	1
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	34
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	10	95	自己免疫性肝炎	40
41	巨細胞性動脈炎	16	96	クローン病	69
42	結節性多発動脈炎	23	97	潰瘍性大腸炎	200
43	顕微鏡的多発血管炎	54	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	49	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	1	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	280	104	コストロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	106	105	チャーシ症候群	2
51	全身性強皮症	25	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	32	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	105	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	24	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー		161 家族性良性慢性天疱瘡	2
112 マリネスコ・シェーグレン症候群		162 類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	20
113 筋ジストロフィー	4	163 特発性後天性全身性無汗症	
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164 眼皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺		165 肥厚性皮膚骨膜炎	
116 アトピー性脊髄炎		166 弾性線維性仮性黄色腫	
117 脊髄空洞症		167 マルフアン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤		168 エーラス・ダンロス症候群	
119 アイザックス症候群		169 メンケス病	
120 遺伝性ジストニア		170 オクシピタル・ホーン症候群	
121 神経フェリチン症		171 ウィルソン病	
122 脳表ヘモジデリン沈着症		172 低ホスファターゼ症	
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173 VATER症候群	
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈硬化症		174 那須・ハコラ病	
125 神経軸索スフェアロイド形成を伴う遺伝性ひまん性白質脳症	1	175 ウィーバー症候群	
126 ベリー症候群		176 コフィン・ローリー症候群	
127 前頭側頭葉変性症		177 有馬症候群	
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎		178 モワット・ウィルソン症候群	
129 痙攣重積型（二相性）急性脳症	1	179 ウィリアムズ症候群	
130 先天性無痛無汗症		180 ATR-X症候群	
131 アレキササンダー病		181 クルーゾン症候群	
132 先天性核上性球麻痺		182 アペール症候群	
133 メビウス症候群		183 ファイファー症候群	
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184 アントレー・ビクスラー症候群	
135 アイカルディ症候群		185 コフィン・シリス症候群	
136 片側巨脳症		186 ロスマンド・トムソン症候群	
137 限局性皮質異形成		187 歌舞伎症候群	1
138 神経細胞移動異常症	2	188 多脾症候群	
139 先天性大脳白質形成不全症		189 無脾症候群	
140 ドラベ症候群		190 鰓耳腎症候群	
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191 ウェルナー症候群	
142 ミオクロニー欠伸てんかん		192 コケイン症候群	
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193 ブラダー・ウィリ症候群	
144 レノックス・ガストー症候群		194 ソトス症候群	
145 ウエスト症候群	2	195 ヌーナン症候群	
146 大田原症候群		196 ヤング・シンプソン症候群	
147 早期ミオクロニー脳症		197 1p36欠失症候群	
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198 4p欠失症候群	
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199 5p欠失症候群	
150 環状20番染色体症候群		200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151 ラスマッセン脳炎		201 アンジェルマン症候群	
152 PCDH19関連症候群		202 スミス・マギニス症候群	
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203 22q11.2欠失症候群	2
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204 エマヌエル症候群	
155 ランドウ・クレフナー症候群		205 脆弱X症候群関連疾患	
156 レット症候群		206 脆弱X症候群	
157 スタージ・ウェーバー症候群	1	207 総動脈幹遺残症	
158 結節性硬化症	3	208 修正大血管転位症	7
159 色素性乾皮症		209 完全大血管転位症	3
160 先天性魚鱗癬		210 単心室症	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	6	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	259
212 三尖弁閉鎖症	3	シトステロール血症	260
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	タンジール病	261
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	12	原発性高カイロミクロン血症	262
215 ファロー四徴症	22	脳腱黄色腫症	263
216 両大血管右室起始症	12	無βリポタンパク血症	264
217 エプスタイン病	2	脂肪萎縮症	265
218 アルポート症候群	1	家族性地中海熱	266
219 ギャロウェイ・モフト症候群		高IgD症候群	267
220 急速進行性糸球体腎炎	13	中條・西村症候群	268
221 抗糸球体基底膜腎炎		化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症	269
222 一次性ネフローゼ症候群	77	慢性再発性多発性骨髄炎	270
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	強直性脊椎炎	271
224 紫斑病性腎炎	3	進行性骨化性線維異形成症	272
225 先天性腎性尿崩症		肋骨異常を伴う先天性側弯症	273
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	骨形成不全症	274
227 オスラー病	1	タナトフォリック骨異形成症	275
228 閉塞性細気管支炎		軟骨無形成症	276
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		リンパ管腫症/ゴーム病	277
230 肺胞低換気症候群	1	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	278
231 α1-アンチトリプシン欠乏症		巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	279
232 カーニー複合		巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	280
233 ウォルフラム症候群		クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	281
234 ヘルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		先天性赤血球形成異常性貧血	282
235 副甲状腺機能低下症		後天性赤芽球癆	283
236 偽性副甲状腺機能低下症		ダイヤモンド・ブラックファン貧血	284
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症		ファンconi貧血	285
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		遺伝性鉄芽球性貧血	286
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		エプスタイン症候群	287
240 フェニルケトン尿症		自己免疫性出血病XIII	288
241 高チロシン血症1型		クローンカイト・カナダ症候群	289
242 高チロシン血症2型		非特異性多発性小腸潰瘍症	290
243 高チロシン血症3型		ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	291
244 メーブルシロップ尿症		総排泄腔外反症	292
245 プロピオン酸血症		総排泄腔遺残	293
246 メチルマロン酸血症		先天性横隔膜ヘルニア	294
247 イソ吉草酸血症		乳幼児肝巨大血管腫	295
248 グルコーストランスポーター1欠損症	1	胆道閉鎖症	296
249 グルタル酸血症1型		アラジール症候群	297
250 グルタル酸血症2型		遺伝性睥炎	298
251 尿素サイクル異常症	1	嚢胞性線維症	299
252 リジン尿性蛋白不耐症		IgG4関連疾患	300
253 先天性葉酸吸収不全		黄斑ジストロフィー	301
254 ポルフィリン症		レーベル遺伝性視神経症	302
255 複合カルボキシラーゼ欠損症		アッシャー症候群	303
256 筋型糖原病		若年発症型両側性感音難聴	304
257 肝型糖原病		遅発性内リンパ水腫	305
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		好酸球性副鼻腔炎	306

(様式第2)
 高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) 欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β-ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LM X1B 関連腎症		327	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因によるものに 限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心キャッスルマン病	
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

件数 109
 患者数 1923

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・人工中耳植込術、人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん患者指導管理料1・2・3	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・外来緩和ケア管理料	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・ゲル充填人工乳房を用いた再建手術(乳房切除後)
・地域連携夜間・休日診療料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・院内トリアージ実施料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・外来放射線照射診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ニコチン依存症管理料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・療養・就労両立支援指導料	・磁気ナビゲーション加算
・がん治療連携計画策定料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・医療機器安全管理料2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・歯科治療時医療管理料	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術

・持続血糖測定器加算	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・遺伝学的検査	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・骨髄微小残存病変量測定	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・体外衝撃波胆石破碎術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下肝切除術
・検体検査管理加算(I)	・生体部分肝移植術
・検体検査管理加算(II)	・体外衝撃波膵石破碎術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・胎児心エコー法	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・脳波検査判断料1	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・神経学的検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・センチネルリンパ節生検	・膀胱水圧拡張術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・画像診断管理加算2	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭部MRI撮影加算	・胎児胸腔・羊水腔シャント術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・医局会 年間46回 ・CPC 年間16回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 58例 / 剖検率 7.8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	明石 定子	乳腺外科学	384,616	補委	日本医療研究開発機構
超音波CTによる乳癌の自動計測・自動診断	明石 定子	乳腺外科学	10,220,000	補委	日本医療研究開発機構
細胞性自然免疫応答賦活によるC型肝炎における肝がん予防法の開発	荒井 潤	消化器内科学	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科学	750,000	補委	日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療科学	300,000	補委	日本医療研究開発機構
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科学	500,000	補委	日本医療研究開発機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 芳紀	放射線治療科学	300,000	補委	日本医療研究開発機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸結腸下層浸潤癌(pT1c)に対するベシタジン併用放射線療法の実験的試験に関する研究開発(JCOG1612)	伊藤 芳紀	放射線治療科学	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
子宮頸癌根治術後再発高リスク患者に対する強度変調放射線治療(IMRT)を用いた低毒性補助療法の確立に向けての研究	伊藤 芳紀	放射線治療科学	100,000	補委	日本医療研究開発機構
ゲノム編集技術を用いた希少難治性神経発達障害の原因遺伝子変異ノックインマウスモデルの確立およびその解析による病態解明と新規治療薬探索	加藤 光広	小児科学	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの	加藤 光広	小児科学	500,000	補委	日本医療研究開発機構
眼局所皮質異形成II型のでんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検医師主導試験	加藤 光広	小児科学	37,573,884	補委	日本医療研究開発機構
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援	黒木 知明	形成外科学	1,008,000	補委	日本医療研究開発機構
乳がん治療における心臓合併症の新たなリスク因子の解明と早期診断法と評価法標準化の確立	児玉 雄介	循環器内科学	153,847	補委	日本医療研究開発機構
糖尿病合併症動脈硬化患者レジストリを基盤としたコルヒチン第3相試験の実施とRCT On Registryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	木庭 新治	循環器内科学	923,077	補委	日本医療研究開発機構
革新的オンライン管理型心臓リハビリテーションシステムの医師主導試験	木庭 新治	循環器内科学	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築	中村 清吾	乳腺外科学	2,538,462	補委	日本医療研究開発機構
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	中村 清吾	乳腺外科学	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
乳腺非触知病変摘出のための磁性を用いたピンポイント検出システムの開発・海外展開	中村 清吾	乳腺外科学	769,231	補委	日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	本田 浩一	腎臓内科学	100,000	補委	日本医療研究開発機構
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	松本 光司	産婦人科学	5,100,000	補委	日本医療研究開発機構
HTLV-I 母子感染予防に関するエビデンス創出のための研究	板橋 家頭夫	病院長	5,457,000	補委	厚生労働省
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科学	500,000	補委	厚生労働省
安全で効果的な質の高い放射線治療の実施体制確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科学	200,000	補委	厚生労働省
日本の集中治療臨床情報を基盤として人工知能を用いた本邦発の重症度予測モデルの開発とパネルデータ活用環境の醸成	大嶽 浩司	麻酔科学	14,106,000	補委	厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
稀少てんかんに関する調査研究	加藤 光広	小児科学	300,000	補委 厚生労働省
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	加藤 光広	小児科学	800,000	補委 厚生労働省
運動症状を主症状とする小児期発症稀少難治性神経疾患研究	加藤 光広	小児科学	1,000,000	補委 厚生労働省
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	土岐 彰	小児外科学	100,000	補委 厚生労働省
ゲノム情報を活用した遺伝性乳癌卵巣癌診療の標準化と先制医療実装にむけたエビデンス構築に関する研究	中村 清吾	乳腺外科学	1,200,000	補委 厚生労働省
HTLV-1母子感染予防に関するエビデンス創出のための研究	水野 克己	小児科学	2,000,000	補委 厚生労働省
がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムの開発	梅田 恵	看護学科	60,000	補委 文部科学省
末梢動脈疾患合併CKD患者の新規治療標的としての終末糖化蛋白AGEs	山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌代謝学	100,000	補委 文部科学省
時間処理およびその情動的価値の生成と崩壊	河村 満	脳神経内科学	7,400,000	補委 文部科学省
時間処理およびその情動的価値の生成と崩壊	河村 満	脳神経内科学	5,900,000	補委 文部科学省
骨折治癒に不利な条件下における、炭酸ガス経皮吸収の骨折治癒促進効果の検討	李 相亮	整形外科	10,000	補委 文部科学省
骨再生療法への炭酸ガスの応用	李 相亮	整形外科	10,000	補委 文部科学省
循環器系罹患療養者の為の無負担型生理機能情報在宅モニター・遠隔支援システムの開発	山越 憲一	整形外科	400,000	補委 文部科学省
MPS法によるNIPTにおけるdiscordantな結果の解明とその臨床的意義	関沢 明彦	産婦人科学	150,000	補委 文部科学省
血中エンドカンを利用したトリプルネガティブ乳がんの早期予後予測と臨床応用への展開	中村 清吾	乳腺外科学	160,000	補委 文部科学省
血中エンドカンを利用したトリプルネガティブ乳がんの早期予後予測と臨床応用への展開	金田 陽子	乳腺外科学	240,000	補委 文部科学省
統合失調症における免疫炎過程亢進と大脳皮質ニューロンの変化	戸田 重誠	精神医学	100,000	補委 文部科学省
新規血管作動性物質の動脈硬化促進機序の解明と虚血性心疾患のバイオマーカーへの応用	木庭 新治	循環器内科学	200,000	補委 文部科学省
バルーンによる留置後ステント展開の臨床応用に向けた血管成長性と血行動態の評価	宮原 義典	循環器内科学	23,000	補委 文部科学省
バルーンによる留置後ステント展開の臨床応用に向けた血管成長性と血行動態の評価	藤井 隆成	循環器内科学	36,000	補委 文部科学省
バルーンによる留置後ステント展開の臨床応用に向けた血管成長性と血行動態の評価	樽井 俊	循環器内科学	23,000	補委 文部科学省
診療報酬改定による医療生産性・効率性向上に関する研究	大嶽 浩司	麻酔科学	250,000	補委 文部科学省
IT社会の医療情報が医療トラストに与えるメカニズムの解明:若年膠原病を対象として	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科学	710,000	補委 文部科学省
生後のIGF-1投与が未熟児網膜症に与える影響の基礎研究	齋藤 雄太	眼科学	1,200,000	補委 文部科学省
慢性閉塞性肺疾患の認知症を予防する非薬物療法の構築	山本 真弓	呼吸器・アレルギー内科学	1,100,000	補委 文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
フレイル合併COPD患者における多職種医療チームによる非薬物的介入の検討	本間 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	600,000	補委 文部科学省
上皮成長因子受容体ErbB2経路のリガンドを用いたアレルギー性喘息の治療法の開発	井上 英樹	呼吸器・アレルギー内科学	800,000	補委 文部科学省
絨毛検査で採取した初期絨毛の遺伝子解析を通じた妊娠高血圧症候群の病態解明	関沢 明彦	産婦人科学	900,000	補委 文部科学省
子宮頸癌の診断・治療における指標としてのHPV型の確立と型別病態メカニズムの解明	松本 光司	産婦人科学	1,100,000	補委 文部科学省
胎盤特異的DNAメチル化からみた母体血による癒着胎盤・胎盤機能異常の評価法の開発	小出 馨子	産婦人科学	1,000,000	補委 文部科学省
母体の脂肪組織間葉系幹細胞を用いた胎児治療法の開発:ダウン症モデルマウスへの応用	川嶋 章弘	産婦人科学	1,800,000	補委 文部科学省
胎児発育不全の原因としての胎盤性モザイクのインパクトについての検討	宮上 景子	産婦人科学	800,000	補委 文部科学省
妊娠高血圧腎症の発症予知方法確立および低用量アスピリン内服による発症予防効果検証	徳中 真由美	産婦人科学	800,000	補委 文部科学省
ヒト鼻粘膜上皮細胞よりのペリオステン産生とその影響	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科学	1,600,000	補委 文部科学省
食道癌および胃癌の腸内細菌叢から解析した患者免疫能における探索的基礎研究	角田 卓也	腫瘍内科学	500,000	補委 文部科学省
心大血管リハビリテーションによるHDL機能の改善と再発予防効果の解明	木庭 新治	循環器内科学	1,200,000	補委 文部科学省
新規HDL機能評価法を用いた糖代謝異常患者に対する急性冠症候群発症阻止の戦略	新家 俊郎	循環器内科学	600,000	補委 文部科学省
心臓リハビリテーションの炎症性サイトカインを介した有用性の解明	正司 真	循環器内科学	1,200,000	補委 文部科学省
消化器癌における術中リアルタイムがん診断自動解析システムの新規開発	青木 武士	消化器・一般外科学	1,600,000	補委 文部科学省
血液線維素溶解系因子による虚血再灌流障害の制御機構の解明と臨床応用に向けて	田代 良彦	消化器・一般外科学	1,100,000	補委 文部科学省
ADAM9を標的とし、NK細胞傷害活性増強による癌自然免疫療法の開発	荒井 潤	消化器内科学	1,300,000	補委 文部科学省
産後経口免疫療法におけるピフィズ菌採取介入効果に関する無作為二重盲検比較試験	今井 孝成	小児科学	1,200,000	補委 文部科学省
超早産児に対する早期強化母乳栄養の効果に関する検討	板橋 家頭夫	小児科学	900,000	補委 文部科学省
実験的腎障害モデルを用いた腎臓病進展因子の解明~IL-34とその関連因子の役割	和田 幸寛	腎臓内科学	800,000	補委 文部科学省
腎不全病態下におけるvascular healthとビタミンD	溝渕 正英	腎臓内科学	1,100,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病の合併症進展機構に関わるエピゲノム異常の解析	本田 浩一	腎臓内科学	300,000	補委 文部科学省
脱抑制によって活性化する興奮性脊髄介在ニューロンネットワークの解明	三上 貴弘	整形外科	1,100,000	補委 文部科学省
新生児ラット脳幹脊髄標本を用いたマルチモーダル鎮痛の神経機構の解明	津澤 佳代	整形外科	500,000	補委 文部科学省
骨粗鬆症薬の投薬・投薬中断が脊椎固定術に与える影響の包括的検討	石川 紘司	整形外科	1,000,000	補委 文部科学省
長期慢性疾患療養者健康支援のための電子カルテ連携型無負担患者モニタリングシステムの開発	山越 康弘	整形外科	4,400,000	補委 文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
損傷脊髄における移植間葉系骨髄幹細胞のホーミングと運動療法との併用効果の検討	平泉 裕	整形外科	900,000	補委 文部科学省
ヒトPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	李 相亮	整形外科	600,000	補委 文部科学省
病的習慣化の神経基盤; 正常な習慣と依存症や強迫性障害はどのように異なるのか	戸田 重誠	精神科学	1,100,000	補委 文部科学省
機能性アプタマーによる包括的心血管病の制御	山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,200,000	補委 文部科学省
乳腺濃度別に乳房検査を選択する新しい乳癌検診のための臨床研究	沢田 晃暢	乳腺外科学	500,000	補委 文部科学省
Insight TNBCtypeによるsubtype/分子標的薬治療の確立	増田 紘子	乳腺外科学	1,500,000	補委 文部科学省
ガンマ脳波規則性の定量化によるてんかん病変検出のための新規バイオマーカーの開発	佐藤 洋輔	脳神経外科学	900,000	補委 文部科学省
膜障害に焦点を当てた高分子Aβオリゴマーの毒性機序に関する検討	小野 賢二郎	脳神経内科学	800,000	補委 文部科学省
重症薬疹における薬物とHLAの結合様式の解析および重症薬疹治療薬の開発	渡辺 秀晃	皮膚科学	1,000,000	補委 文部科学省
術前軽度認知障害が術後認知機能に及ぼす影響の検討	大嶽 浩司	麻酔科学	1,900,000	補委 文部科学省
呼吸プロボフォル連続測定の臨床使用のための基盤研究	増井 健一	麻酔科学	600,000	補委 文部科学省
電子診療情報と患者報告アウトカムを活用したSLE診療の質の評価システム開発と検証	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科学	800,000	補委 文部科学省
関節リウマチの骨破壊の病態とADAM-17の関連・新規薬剤の開発	古屋 秀和	リウマチ・膠原病内科学	1,400,000	補委 文部科学省
オキシトシンを標的とした抑うつ状態合併関節リウマチの新たな治療戦略の構築	三輪 裕介	リウマチ・膠原病内科学	1,000,000	補委 文部科学省
軽度から中等度熟中症における脳神経機能への影響と予防法の開発	土肥 謙二	救急・災害医学	1,100,000	補委 文部科学省
フォロー四徴症術後患者の経皮的肺動脈弁置換術早期導入に向けた適応判定法の構築	藤井 隆成	小児循環器内科学	1,000,000	補委 文部科学省
自己調節鎮痛法を用いた術後疼痛管理の予後因子の探索研究	米澤 龍	病院薬剤学	800,000	補委 文部科学省
NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの開発	井出 由美	看護学科	900,000	補委 文部科学省
看護師の倫理的行動を促進する教育・支援プログラム開発のアクションリサーチ	福宮 智子	看護学科	700,000	補委 文部科学省
院内感染対策を目的とする薬剤耐性菌の抗菌薬耐性機構の解析	福地 邦彦	臨床病理診断学	700,000	補委 文部科学省
				補委
				補委

計 95件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
~					
70					
~					

計121件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ando Koichi, Tanaka Akihiko, Sagara Hironori	呼吸器・アレルギー内科	Comparative Efficacy and Safety of Dupilumab and Benralizumab in Patients with Inadequately Controlled Asthma: A Systematic Review	Int J Mol Sci. 2020 Jan 30;21(3):889. (オンライン)	Review
2	Fukuda Yosuke, Mikuni Hatsuko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Cutaneous metastases of lung cancer	Clin Case Rep. 2019 Jul 25;7(9):1796-1797. (オンライン)	Original article
3	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Comparison of three frailty models and a sarcopenia model in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease	Geriatr Gerontol Int. 2019 Sep;19(9):896-901.	Original article
4	Homma Tetsuya, Fukuda Yosuke, Uchida Yoshitaka et al.	呼吸器・アレルギー内科	Inhibition of Virus-Induced Cytokine Production from Airway Epithelial Cells by the Late Addition of Budesonide	Medicina (Kaunas). 2020 Feb 27;56(3):98. (オンライン)	Original article
5	Inoue Hideki, Hattori Takeshi, Zhou Xiuxia et al.	呼吸器・アレルギー内科	Dysfunctional ErbB2, an EGF receptor family member, hinders repair of airway epithelial cells from asthmatic patients	J Allergy Clin Immunol. 2019 Jun;143(6):2075-2085.e10.	Original article
6	Suzuki Shintaro, Nwaru Bright I, Ekerljung Linda et al.	呼吸器・アレルギー内科	Characterization of sensitization to furry animal allergen components in an adult population	Clin Exp Allergy. 2019 Apr;49(4):495-505.	Original article
7	Tanaka Akihiko, Tohda Yuji, Okamiya Kazuhiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy and Safety of HDM SLIT Tablet in Japanese Adults with Allergic Asthma	J Allergy Clin Immunol Pract. 2020 Feb;8(2):710-720.e14.	Original article
8	Yamaguchi Fumihiro, Minakata Takao, Miura Sakiko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Heterogeneity of latent tuberculosis infection in a patient with lung cancer	J Infect Public Health. 2020 Jan;13(1):151-153.	Original article
9	Yamaoka Toshimitsu, Arata Satoru, Homma Mavumi	呼吸器・アレルギー内科	Blockade of EGFR Activation Promotes TNF-Induced Lung Epithelial Cell Apoptosis and Pulmonary Injury	Int J Mol Sci. 2019 Aug 17;20(16):4021. (オンライン)	Original article
10	Hosonuma Masahiro, Yajima Nobuyuki, Takahashi Ryo et al.	リウマチ・膠原病内科	Fragmented QRS complex in patients with systemic lupus erythematosus at the time of diagnosis and its relationship with disease activity	PLoS One. 2020 Jan 2;15(1):e0227022. (オンライン)	Original article
11	Ikari Yuzo, Isozaki Takeo, Tsubokura Yumi	リウマチ・膠原病内科	Peficitinib Inhibits the Chemotactic Activity of Monocytes via Proinflammatory Cytokine Production in Rheumatoid Arthritis Fibroblast-Like Synovioocytes	Cells. 2019 Jun 9;8(6):561. (オンライン)	Original article
12	Isojima Sakiko, Miura Yoko, Saito Mavu et al.	リウマチ・膠原病内科	Serum anti-Müllerian hormone levels in women with rheumatoid arthritis during tumor necrosis factor- α inhibitor treatment: Exploratory research	Obstet Med. 2019 Dec;12(4):186-189.	Original article
13	Oguro Nao, Yajima Nobuyuki, Miwa Yusuke	リウマチ・膠原病内科	Age and quality of life in patients with rheumatoid arthritis treated with biologic agents	Mod Rheumatol. 2020 Jan;30(1):44-49.	Original article
14	Goto Satoshi, Ohara Makoto, Osaka Naoya et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Associations of Glucose and Blood Pressure Variability with Cardiac Diastolic Function in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus and Hypertension: A Retrospective Observational Association of Hemoglobin A1c, 1,5-Anhydro-D-Glucitol and Glycated Albumin with Oxidative Stress in Type 2 Diabetes Mellitus Patients: A Cross-Sectional Study	Showa Univ J Med Sci. 2019 Jun;31(2):139-149	Original article
15	Kohata Yo, Ohara Makoto, Nagaike Hiroe et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Association of Hemoglobin A1c, 1,5-Anhydro-D-Glucitol and Glycated Albumin with Oxidative Stress in Type 2 Diabetes Mellitus Patients: A Cross-Sectional Study	Diabetes Ther. 2020 Mar;11(3):655-665.	Original article
16	Koshibu Masakazu, Mori Yusaku, Saito Tomomi et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Antiatherogenic effects of liraglutide in hyperglycemic apolipoprotein E-null mice via AMP-activated protein kinase-independent mechanisms	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2019 May 1;316(5):E895-E907.	Original article
17	Koshibu Masakazu, Mori Yusaku, Kushima Hideki et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Involvement of Vascular Endothelial Cells in the Anti-atherogenic Effects of Liraglutide in Diabetic Apolipoprotein E-null Mice	Showa Univ J Med Sci. 2019 Jun;31(2):115-124	Original article
18	Mori Yusaku, Matsui Takanori, Hirano Tsutomu et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	GLP as a Potential Therapeutic Target for Atherosclerotic Cardiovascular Disease-A Systematic Review	Int J Mol Sci. 2020 Feb 22;21(4):1509. (オンライン)	Review
19	Mori Yusaku, Shimizu Hiroyuki, Kushima Hideki et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Nesfatin-1 suppresses peripheral arterial remodeling without elevating blood pressure in mice	Endocr Connect. 2019 May 1;8(5):536-546.	Original article
20	Mori Yusaku, Terasaki Michishige, Hiromura Munenori et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Luseogliflozin attenuates neointimal hyperplasia after wire injury in high-fat diet-fed mice via inhibition of perivascular adipose tissue remodeling	Cardiovasc Diabetol. 2019 Oct 31;18(1):143. (オンライン)	Original article
21	Ohara Makoto, Hiromura Munenori, Nagaike Hiroe et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Relationship between glucose variability evaluated by continuous glucose monitoring and clinical factors, including glucagon-stimulated insulin secretion in patients with type 2 diabetes	Diabetes Res Clin Pract. 2019 Dec;158:107904.	Original article
22	Ohara Makoto, Kohata Yo, Nagaike Hiroe et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Association of glucose and blood pressure variability on oxidative stress in patients with type 2 diabetes mellitus and hypertension: a cross-sectional study	Diabetol Metab Syndr. 2019 Apr 11;11:29. (オンライン)	Original article
23	Yamagishi Sho-ichi	糖尿病・代謝・内分泌内科	Role of Advanced Glycation Endproduct (AGE)-Receptor for Advanced Glycation Endproduct (RAGE) Axis in Cardiovascular Disease and Its Therapeutic Intervention	Circ J. 2019 Aug 23;83(9):1822-1828.	Original article

24	Yamamura So, Fukui Tomoyasu, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Circulating anti-glutamic acid decarboxylase-65 antibody titers are positively associated with the capacity of insulin secretion in acute-onset type 1 diabetes with short duration in a Japanese population	J Diabetes Investig. 2019 Nov;10(6):1480-1489.	Original article
25	Arai Jun, Shimozuma Yuu, Otoyama Yumi et al.	消化器内科	Three cases of histologically proven hepatic epithelioid hemangioendothelioma evaluated using a second-generation microbubble contrast medium in ultrasonography: case reports	BMC Gastroenterol. 2019 Nov 14;19(1):187. (オンライン)	Case report
26	Doi Hiroyoshi, Yoshio Sachiyo, Yoneyama Keiichiro et al.	消化器内科	Immune Determinants in the Acquisition and Maintenance of Antibody to Hepatitis B Surface Antigen in Adults After First-Time Hepatitis B Vaccination	Hepatol Commun. 2019 Apr 22;3(6):812-824. (オンライン)	Original article
27	Kitamura Katsuya, Yamamiya Akira.	消化器内科	Endoscopic side-by-side uncovered self-expandable metal stent placement for malignant hilar biliary obstruction	Ther Adv Gastrointest Endosc. 2019 May 16;12:2631774519846345. (オンライン)	Original article
28	Nakajima Yoko, Uchikoshi Manabu, Wang Tianpeng et al.	消化器内科	Persistence of Cryoglobulinemia in Patients with Chronic Hepatitis C after Successful Treatment with Direct-acting Antivirals	Showa Univ J Med Sci. 2019 Sep;31(3):253-262	Original article
29	Yamamiya Akira, Kitamura Katsuya, Ishii Yu	消化器内科	Severe Acute Pancreatitis with Candida Endophthalmitis	Intern Med. 2019 Sep 1;58(17):2529-2533.	Case report
30	Yamamiya Akira, Kitamura Katsuya, Ishii Yu	消化器内科	Safety of endoscopic sphincterotomy in patients undergoing antithrombotic treatment: a retrospective study	Ther Adv Gastrointest Endosc. 2019 May 16;12:2631774519846327. (オンライン)	Original article
31	Akutsu Yasushi, Kawamura Mitsuharu, Tanisawa Hiroki et al.	循環器内科	Intracardiac Thrombosis and Heart Failure in a Patient with Hepatocellular Carcinoma and Cardiac Amyloidosis and an Implanted Cardiac Resynchronization Therapy Device	Am J Case Rep. 2019 Jun 30;20:933-936.	Case report
32	Kawamura Mitsuharu, Arai Shuhei, Gokan Toshihiko et al.	循環器内科	Idiopathic basal crux ventricular arrhythmias with left bundle branch block and superior axis: A comparison with inferior-septal valvular arrhythmias	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Oct;30(10):1914-1922.	Original article
33	Kawamura Mitsuharu, Arai Shuhei, Yoshikawa	循環器内科	Association left ventricular lead and ventricular arrhythmias after upgrade to cardiac resynchronization therapy in patients with implantable cardioverter defibrillators	Clin Cardiol. 2019 Jul;42(7):670-677.	Original article
34	Koba Shinji, Takao Tetsuya, Shimizu Fumiko	循環器内科	Comparison of plasma levels of different species of trans fatty acids in Japanese male patients with acute coronary syndrome versus healthy men	Atherosclerosis. 2019 May;284:173-180.	Original article
35	Munetsugu Yumi, Kawamura Mitsuharu, Gokan Toshihiko et al.	循環器内科	J-Wave Elevation in the Inferior Leads Predicts Lethal Ventricular Arrhythmia Initiated by Premature Ventricular Contractions With Right Bundle Branch Block and Superior Axis	Circ J. 2019 Aug 23;83(9):1851-1859.	Original article
36	Shinke Toshiro, Itoh Tomonori, Ishida Masaru et al.	循環器内科	Early and Mid-Term Vascular Responses to Optical Coherence Tomography-Guided Everolimus-Eluting Stent Implantation in Stable Coronary Artery Disease	Can J Cardiol. 2019 Nov;35(11):1513-1522.	Original article
37	Akizawa Tadao, Iwasaki Manabu, Otsuka Tetsuro et al.	腎臓内科	Roxadustat Treatment of Chronic Kidney Disease-Associated Anemia in Japanese Patients Not on Dialysis: A Phase 2, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial	Adv Ther. 2019 Jun;36(6):1438-1454.	Original article
38	Akizawa Tadao, Taguchi Megumi, Matsuda Yoshimi et al.	腎臓内科	Molidustat for the treatment of renal anaemia in patients with dialysis-dependent chronic kidney disease: design and rationale of three phase III studies	BMJ Open. 2019 Jun 14;9(6):e026602. (オンライン)	Original article
39	Iida Ayana, Wada Yukihiro, Hayashi Junichi et al.	腎臓内科	Membranous nephropathy caused by rheumatoid arthritis	CEN Case Rep. 2019 Nov;8(4):233-238.	Case report
40	Iseri Ken, Qureshi Abdul Rashid, Dai Lu et al.	腎臓内科	Bone mineral density at different sites and 5 years mortality in end-stage renal disease patients: A cohort study	Bone. 2020 Jan;130:115075.	Original article
41	Iseri Ken, Watanabe Makoto, Lee Xiao-Pen et al.	腎臓内科	Elimination of intravenous alendronate by hemodialysis: A kinetic study	Hemodial Int. 2019 Oct;23(4):466-471.	Original article
42	Iseri Ken, Watanabe Makoto, Yoshikawa	腎臓内科	Effects of Denosumab and Alendronate on Bone Health and Vascular Function in Hemodialysis Patients: A Randomized, Controlled Trial	J Bone Miner Res. 2019 Jun;34(6):1014-1024.	Original article
43	Kanazawa Nobuhiro, Iyoda Masayuki, Tachibana Shohei et al.	腎臓内科	Therapeutic Potential of Thrombomodulin in Renal Fibrosis of Nephrotoxic Serum Nephritis in Wistar-Kyoto Rats	Kidney Blood Press Res. 2020 Mar 6;45(3):391-406.	Original article
44	Mizobuchi Masahide, Ogata Hiroaki, Koiba Fumihiko	腎臓内科	Secondary Hyperparathyroidism: Pathogenesis and Latest Treatment	Ther Apher Dial. 2019 Aug;23(4):309-318.	Review
45	Mizobuchi Masahide, Ogata Hiroaki, Koiba Fumihiko et al.	腎臓内科	Early response of the parathyroid gland to withdrawal of a calcimimetic compound in uremic rats	Am J Physiol Renal Physiol. 2020 Mar 1;318(3):F639-F646.	Original article
46	Tachibana Shohei, Iyoda Masayuki, Matsumoto Kei	腎臓内科	Recombinant human soluble thrombomodulin attenuates anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis in Wistar-Kyoto rats through anti-inflammatory effects	Nephrol Dial Transplant. 2019 May 1;34(5):774-782.	Original article
47	Tachibana Shohei, Iyoda Masayuki, Suzuki Taihei et al.	腎臓内科	Serum uromodulin is associated with the severity of clinicopathological findings in ANCA-associated glomerulonephritis	PLoS One. 2019 Nov 14;14(11):e0224690. (オンライン)	Original article
48	Arai Nana, Homma Mayumi, Abe Maasa et al.	血液内科	Impact of CD123 expression, analyzed by immunohistochemistry, on clinical outcomes in patients with acute myeloid leukemia	Int J Hematol. 2019 May;109(5):539-544.	Original article

49	Fujiwara Shun, Hattori Norimichi, Matsui Tomoharu et al.	血液内科	Refined Disease Risk Index for Hematological Malignancies, Including Rare Disorders, After Allogeneic Stem Cell Transplantation	Transplant Proc. 2019 Dec;51(10):3437-3443.	Original article
50	Hattori Norimichi, Kawaguchi Yukiko, Sasaki	血液内科	Monitoring TIGIT/DNAM-1 and PVR/PVRL2 Immune Checkpoint Expression Levels in Allogeneic Stem Cell Transplantation for Acute Myeloid Leukemia	Biol Blood Marrow Transplant. 2019 May;25(5):861-867.	Original article
51	Hattori Norimichi, Nakamaki Tsuyoshi	血液内科	Natural Killer Immunotherapy for Minimal Residual Disease Eradication Following Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Acute Myeloid Leukemia	Int J Mol Sci. 2019 Apr 26;20(9):2057. (オンライン)	Review
52	Hattori Norimichi, Saito Bungo, Matsui Tomoharu et al.	血液内科	Comparative Study of Tacrolimus and Short-Term Methotrexate: 2-Day versus 3-Day Methotrexate as Graft-versus-Host-Disease Prophylaxis after Umbilical Cord Blood Transplantation in Adults	Biol Blood Marrow Transplant. 2020 Feb;26(2):367-372.	Original article
53	Futamura Akinori, AU - Nakamura M, Kawamura	脳神経内科	Novel VPS13A Gene Mutations in a South Asian, Indian Patient with Chorea-acanthocytosis	Neurol India. 2020 Jan-Feb;68(1):206-208.	Letter
54	Kuroda Takeshi, Honma Motomasu, Mori	脳神経内科	Increased Presence of Cerebral Microbleeds Correlates With Ventricular Enlargement and Increased White Matter Hyperintensities in Alzheimer's Disease	Front Aging Neurosci. 2020 Jan 31;12:13. (オンライン)	Original article
55	Murakami Hidetomo, Tokuda Takahiko, AU - El-Agnaf OMA et al.	脳神経内科	Correlated levels of cerebrospinal fluid pathogenic proteins in drug-naïve Parkinson's disease	BMC Neurol. 2019 Jun 4;19(1):113. (オンライン)	Original article
56	Nomoto Shohei, Kinno Ryuta, Ochiai Hirotsuka et al.	脳神経内科	The relationship between thyroid function and cerebral blood flow in mild cognitive impairment and Alzheimer's disease	PLoS One. 2019 Apr 3;14(4):e0214676. (オンライン)	Original article
57	Ono Kenjiro, Tsuji Mayumi	脳神経内科	Protofibrils of Amyloid- β are Important Targets of a Disease-Modifying Approach for Alzheimer's Disease	Int J Mol Sci. 2020 Jan 31;21(3):952. (オンライン)	Review
58	Ono Kenjiro, Tsuji Mayumi	脳神経内科	Pharmacological Potential of Cilostazol for Alzheimer's Disease	Front Pharmacol. 2019 May 22;10:559. (オンライン)	Review
59	Ono Kenjiro, Zhao Daisy, Wu Qingli et al.	脳神経内科	Pine Bark Polyphenolic Extract Attenuates Amyloid- β and Tau Misfolding in a Model System of Alzheimer's Disease Neuropathology	J Alzheimers Dis. 2020 Feb 18;73(4):1597-1606.	Original article
60	Sugimoto Azusa, Kuroda Takeshi, Tsuda Hiromasa et al.	脳神経内科	Three-dimensional Imaging of Abducens Palsy by Neurovascular Compression	Intern Med. 2020 Jan 15;59(2):305-307.	Original article
61	Yasumoto Taro, Takamura Yusaku, Tsuji Mayumi et al.	脳神経内科	High molecular weight amyloid β (1-42) oligomers induce neurotoxicity via plasma membrane damage	FASEB J. 2019 Aug;33(8):9220-9234.	Original article
62	Ohkuma Ryotaro, Yada Erica, Ishikawa Shumpei et al.	腫瘍内科	High expression of olfactomedin-4 is correlated with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer	PLoS One. 2020 Jan 10;15(1):e0226707. (オンライン)	Original article
63	Tarumi Yoko, Harada Taku, Saito Tsukasa et al.	救急診療科	Usefulness of bounce-back admission in monitoring the quality of practice in the emergency department	Ther Clin Risk Manag. 2019 May 6;15:647-658. (オンライン)	Original article
64	Masuda Tomoaki, Aoki Atsushi, Omoto Tadashi et al.	心臓血管外科	Effects of the Prophylactic Use of Amiodarone Infusion to Prevent Postoperative Atrial Fibrillation after Cardiac Surgery	Showa Univ J Med Sci. 2019 Sep;31(3):275-281	Original article
65	Tarui Suguru, Miyahara Yoshinori, Oyama Nobuo et al.	小児心臓血管外科	Double-outlet extension for narrowed retroaortic space	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2020 Feb;28(2):123-125.	Original article
66	Aoki Takeshi, Koizumi Tomotake, Mansour Doaa A et al.	消化器・一般外科	Ultrasound-Guided Preoperative Positive Percutaneous Indocyanine Green Fluorescence Staining for Laparoscopic Anatomical Liver Resection	J Am Coll Surg. 2020 Mar;230(3):e7-e12.	Original article
67	Fujimasa Koichiro, Ohike Nobuyuki, Norose Tomoko et al.	消化器・一般外科	Frequent and Specific Involvement of Changes of the p16-RB Pathway in Esophageal Neuroendocrine Carcinoma	Anticancer Res. 2019 Apr;39(4):1927-1934.	Original article
68	Koizumi Tomotake, Aoki Takeshi, Enami Yuta et al.	消化器・一般外科	The Prognosis for Unexpected Gallbladder Carcinoma with Bile Spillage during Laparoscopic Cholecystectomy	Showa Univ J Med Sci. 2019 Dec;31(4):323-328	Original article
69	Kusano Tomokazu, Aoki Takeshi, Yamazaki	消化器・一般外科	The Surgical Benefits of Repeat Hepatectomy for Colorectal Liver Metastasis	Showa Univ J Med Sci. 2019 Dec;31(4):355-364	Original article
70	Ono Kohei, Fukoe Yoshihiro, Lee Yugen et al.	消化器・一般外科	Treating Immunoglobulin A Vasculitis in an Elderly Patient Using Steroids: A Clinical Study	In Vivo. 2019 Jul-Aug;33(4):1325-1328.	Case report
71	Tashiro Yoshihiko, Han Qinghong, Tan	消化器・一般外科	Oral Recombinant Methioninase Prevents Obesity in Mice on a High-fat Diet	In Vivo. 2020 Mar-Apr;34(2):489-494.	Original article
72	Tomioaka Kodai, Ohike Nobuyuki, Aoki Takeshi et al.	消化器・一般外科	Solid Pseudopapillary Neoplasm of the Pancreas with High-Grade Malignant Transformation Involving p16-RB Pathway Alterations	Case Rep Surg. 2020 Jan 13;2020:5980382. (オンライン)	Case report
73	Wada Yusuke, Aoki Takeshi, Murakami	消化器・一般外科	Individualized procedures for splenic artery dissection during laparoscopic distal pancreatectomy	BMC Surg. 2020 Feb 13;20(1):32. (オンライン)	Original article
74	Taruno Kanae, Kurita Tomoko, Kuwahata Akihiko et al.	乳腺外科	Multicenter clinical trial on sentinel lymph node biopsy using superparamagnetic iron oxide nanoparticles and a novel handheld magnetic probe	J Surg Oncol. 2019 Dec;120(8):1391-1396.	Original article

75	Yoshida Reiko, Watanabe Chie, Yokoyama Shiro et al.	乳腺外科	Analysis of clinical characteristics of breast cancer patients with the Japanese founder mutation BRCA1 L63X	Oncotarget. 2019 May 14;10(35):3276-3284. (オンライン)	Original article
76	Chiba Masahiro, Yonekura Takeo, Kaji Tatsuru et al.	小児外科	Ethanol lock therapy in pediatric patients: A multicenter prospective study	Pediatr Int. 2020 Mar;62(3):379-385.	Original article
77	Arai Shintaro, Mizutani Tohru, Sugiyama Tatsuva et al.	脳神経外科	An Experimental Clamping and Cutting Study of Carotid and Intracranial Stents: Preparation for Surgical Rescue in Stent Complications	World Neurosurg. 2020 Jan;133:e739-e744.	Original article
78	Arai Shintaro, Shimizu Katsuyoshi, Mizutani Tohru et al.	脳神経外科	Chondroma in the hypoglossal canal: A case report	Surg Neurol Int. 2019 Apr 24;10:63. (オンライン)	Case report
79	Matsumoto Masaki, Mizutani Tohru	脳神経外科	In Reply to "Using Falciform Ligament as Surgical Landmark for Diagnosis of Paraclinoid Aneurysms"	World Neurosurg. 2019 Jul;127:651.	Letter
80	Matsumoto Masaki, Mizutani Tohru, Sugiyama Tatsuva	脳神経外科	Intraoperative Micro-Measurement in Neurosurgical Microsurgery: A Technical Note	Asian J Neurosurg. 2019 Jul-Sep;14(3):715-717.	Original article
81	Sato Yosuke, Ochi Ayako, Mizutani Tohru	脳神経外科	Low entropy of interictal gamma oscillations is a biomarker of the seizure onset zone in focal cortical dysplasia type II	Epilepsy Behav. 2019 Jul;96:155-159.	Original article
82	Shimizu Katsuyoshi	脳神経外科	Lateral Basal Approach to CPA in Supine No-Retractor Method: Microvascular Decompression for Hemifacial Spasm	J Neurol Surg B Skull Base. 2019 Jun;80(Suppl 3):S318-S319.	Original article
83	Dodo Yusuke, Kudo Yoshifumi, Ishikawa Koji et al.	整形外科	Fracture-Dislocation of the Cervical Spine Secondary to Low-Impact Trauma in a Patient with Klippel-Feil Syndrome: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 2019 Aug 16;4(1):84-86. (オンライン)	Original article
84	Handa Kazuaki, Kiyohara Shuichi, Yamakawa Tomoyuki et al.	整形外科	Bone loss caused by dopaminergic degeneration and levodopa treatment in Parkinson's disease model mice	Sci Rep. 2019 Sep 24;9(1):13768. (オンライン)	Original article
85	Nishi Masanori, Okano Ichiro, Sawada Takatoshi et al.	整形外科	Cementless Bipolar Hemiarthroplasty for Low-energy Intracapsular Proximal Femoral Fracture in Elderly East-Asian Patients: A Longitudinal 10-year Follow-up Study	Hip Pelvis. 2019 Dec;31(4):206-215.	Original article
86	Okano Ichiro, Omata Joe, Hoshino Yushi et al.	整形外科	Chronic dysphagia caused by Laryngo-vertebral Synostosis after anterior fusion for cervical spine trauma: a case report	BMC Musculoskelet Disord. 2020 Mar 4;21(1):143. (オンライン)	Original article
87	Sekimizu Masaya, Ogura Koichi, Yasunaga Hideo et al.	整形外科	Development of nomograms for prognostication of patients with primary soft tissue sarcomas of the trunk and extremity: report from the Bone and Soft Tissue Tumor Registry in Japan	BMC Cancer. 2019 Jul 4;19(1):657. (オンライン)	Original article
88	Sekimizu Masaya, Yoshida Akihiko, Mitani Sachiyo et al.	整形外科	Frequent mutations of genes encoding vacuolar H(+) - ATPase components in granular cell tumors	Genes Chromosomes Cancer. 2019 Jun;58(6):373-380.	Original article
89	Shirahata Toshiyuki, Okano Ichiro, Salzmann Stephan N et al.	整形外科	Association Between Surgical Level and Early Postoperative Thigh Symptoms Among Patients Undergoing Standalone Lateral Lumbar Interbody Fusion	World Neurosurg. 2020 Feb;134:e885-e891.	Original article
90	Tsuchiya Koki, Ishikawa Koji, Tani Soji et al.	整形外科	Analysis of three-dimensional bone mineral density and bone strength measured by quantitative computed tomography following denosumab discontinuation in a patient with postmenopausal osteoporosis	Clin Interv Aging. 2019 Aug 7;14:1445-1450. (オンライン)	Case report
91	Yamamura Ryo, Kudo Yoshifumi, Matsuoka Akira et al.	整形外科	Anterior Column Reconstruction Performed for Complete Anterior Longitudinal Ligament Rupture Caused by Surgical Correction with Lateral Interbody Fusion for Kyphosis	Spine Surg Relat Res. 2019 Jun 21;4(1):87-90. (オンライン)	Original article
92	Kobinata Naomi, Yoshikawa Hideto, Iwasaka	リハビリテーション科	Lowered Rhythm Tapping Ability in Patients With Constructional Apraxia After Stroke	Front Neurosci. 2020 Mar 24;14:247. (オンライン)	Original article
93	Sasaki Y, Madada-Nyakauru R N,	形成外科	The ideal intercostal space for internal mammary vessel exposure during total rib-sparing microvascular breast reconstruction: A critical evaluation	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2019 Jun;72(6):1000-1006.	Original article
94	Shibuya Yuka, Morioka Daichi, Nomura Misako et al.	形成外科	Earwax of patients with hidradenitis suppurativa: A retrospective study	Arch Plast Surg. 2019 Nov;46(6):566-571.	Original article
95	Zhang Zhuo, Miyabe Mai, Morioka Daichi et al.	形成外科	Incidence of Secondary Lip Correction for Children With Unilateral Cleft Lip: A Single-Center Retrospective Study	Ann Plast Surg. 2019 Oct;83(4):424-428.	Original article
96	Arakaki Tatsuya, Hasegawa Junichi, Nakamura	産婦人科	First-trimester measurements of the three-dimensional ultrasound placental volume and uterine artery Doppler in early- and late-onset fetal growth restriction	J Matern Fetal Neonatal Med. 2020 Feb;33(4):564-569.	Original article
97	Hirose Yusuke, Onuki Mamiko, Tenjimbayashi Yuri et al.	産婦人科	Whole-Genome Analysis of Human Papillomavirus Type 16 Prevalent in Japanese Women with or without Cervical Lesions	Viruses. 2019 Apr 16;11(4):350. (オンライン)	Original article
98	Kawashima Akihiro, Yasuhara Rika, Akino Ryosuke et al.	産婦人科	Engraftment potential of maternal adipose-derived stem cells for fetal transplantation	Heliyon. 2020 Mar 4;6(3):e03409. (オンライン)	Original article
99	Matsumoto Koji, Yaegashi Nobuo, Iwata Takashi et al.	産婦人科	Reduction in HPV16/18 prevalence among young women with high-grade cervical lesions following the Japanese HPV vaccination program	Cancer Sci. 2019 Dec;110(12):3811-3820.	Original article

100	Matsushita Tomomi, Sekizawa Akihiko, Jacobs Lisa K et al.	産婦人科	Racial Disparities in Response to a US Food and Drug Administration Safety Communication Regarding the Use of Power Morcellation for the Treatment of Uterine Leiomyoma	J Minim Invasive Gynecol. 2020 Jan;27(1):178-185.e1.	Original article
101	Miyagami Keiko, Matsuoka Ryu, Tokunaka Mayumi et al.	産婦人科	A case of Ewing's sarcoma identified via noninvasive prenatal testing	Clin Case Rep. 2020 Mar 14;8(5):867-871. (オンライン)	Case report
102	Nakamura Masamitsu, Oba Tomohiro, Takita Hiroko et al.	産婦人科	Differences in perinatal outcomes according to forming period of single umbilical cord in singleton pregnancy	Prenat Diagn. 2019 Jul;39(8):588-594.	Original article
103	Oba Tomohiro, Koyano Maya, Hasegawa Junichi et al.	産婦人科	The inferior vena cava diameter is a useful ultrasound finding for predicting postpartum blood loss	J Matern Fetal Neonatal Med. 2019 Oct;32(19):3251-3254.	Original article
104	Okada Yoshiyuki, Miyamoto Shingo, Mimura Takashi et al.	産婦人科	Spontaneous regression of quiescent gestational trophoblastic disease after pregnancy: a case report	BMC Womens Health. 2019 Jul 23;19(1):101. (オンライン)	Case report
105	Saito Mizue, Tokunaka Mayumi, Takita Hiroko et al.	産婦人科	Impact of first trimester determination of abnormal cord insertion on twin-to-twin transfusion syndrome and other adverse outcomes in monochorionic diamniotic twins: A retrospective cohort study	Prenat Diagn. 2020 Mar;40(4):507-513.	Original article
106	Seo K, Ichizuka K, Okai T et al.	産婦人科	Treatment of twin-reversed arterial perfusion sequence using high-intensity focused ultrasound	Ultrasound Obstet Gynecol. 2019 Jul;54(1):128-134.	Case report
107	Shiohara Ritsuko, Lee Xiao-Pen, Yamada Miho et al.	眼科	High-throughput method to analyze tegafur and 5-fluorouracil in human tears and plasma using hydrophilic interaction liquid chromatography/tandem mass spectrometry	Rapid Commun Mass Spectrom. 2019 Dec 30;33(24):1906-1914.	Original article
108	Sueki Hirohiko, Kitami Yuki, Watanabe Hideaki	皮膚科	Severe Cutaneous Adverse Reactions during Tapering of High-Dose Systemic Steroid Therapy for Autoimmune Diseases: Implications for Non-HIV Immune Reconstitution Inflammatory Syndrome	Case Rep Dermatol. 2019 Jun 13;11(2):166-174. (オンライン)	Case report
109	Nakasato Takehiko, Kusaka Chiho, Ota Mika et al.	泌尿器科	A Novel, Circulating Tumor Cell Enrichment Method Reduces ARV7 False Positivity in Patients with Castration-Resistant Prostate Cancer	Diagnostics (Basel). 2020 Mar 11;10(3):151. (オンライン)	Original article
110	Naoe Michio, Kusaka Chiho, Ohta Mika et al.	泌尿器科	Development of a Highly Sensitive Technique for Capturing Renal Cell Cancer Circulating Tumor Cells	Diagnostics (Basel). 2019 Aug 14;9(3):96. (オンライン)	Original article
111	Nomura Yasuya, Tanaka Toru, Kobayashi Hitome et al.	耳鼻咽喉科	A 3-Dimensional Model of the Human Round Window Membrane	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2019 Jun;128(6_suppl):103S-110S.	Original article
112	Oikawa Kosuke, Sakurai Motochiro, Murakawa Tetsuro et al.	小児科	Survey of a nutrition management method for very low birthweight infants: Status before wide use of breast milk banks in Japan	Pediatr Int. 2020 Feb;62(2):180-188.	Original article
113	Watanabe Yoshitaka, Abe Yoshifusa, Sakamoto Shinichi et al.	小児科	Pediatric Cystinuria Patient With Novel Mutation in SLC3A1	Glob Pediatr Health. 2019 Jul 18;6:2333794X19862441. (オンライン)	Original article
114	Fujii Takanari, Higaki Takashi, Tomita Hideshi et al.	小児循環器内科	Transcatheter closure of perimembranous ventricular septal defects with Amplatzer® duct occluder I; The first case report in Japan	J Cardiol Cases. 2019 Aug 21;20(4):147-150. (オンライン)	Case report
115	Murakami Wakana, Tozaki Mitsuhiro, Nakamura Seigo	放射線科	The clinical impact of MRI screening for BRCA mutation carriers: the first report in Japan	Breast Cancer. 2019 Sep;26(5):552-561.	Original article
116	Mase Ayaka, Yamaguchi Fumihiro, Funaki Toshitaka et al.	臨床病理診断科	PCR amplification of the erm(41) gene can be used to predict the sensitivity of Mycobacterium abscessus complex strains to clarithromycin	Exp Ther Med. 2020 Feb;19(2):945-955.	Original article
117	Kato Akihito	救命救急科	Atmospheric impregnation behavior of calcium phosphate materials for antibiotic therapy in neurotrauma surgery	PLoS One. 2020 Mar 17;15(3):e0230533. (オンライン)	Original article
118	Hinata Miwa, Miyazaki Kikuko, Okada Hiroshi et al.	病院薬剤学	Mindset modification of community pharmacists in a collaborative relationship between a major hospital and neighboring community pharmacies: a qualitative study	BMC Health Serv Res. 2019 Jul 15;19(1):487. (オンライン)	Original article
119	Momo Kenji, Yasu Takeo, Yasui Hiroshi et al.	病院薬剤学	Risk factors affecting the failed low-density lipoprotein level achievement rate in working-age male population at high cardiovascular risk	J Clin Pharm Ther. 2019 Oct;44(5):715-719.	Original article
120	Nio Yuta, Momo Kenji, Sugita Hideki et al.	病院薬剤学	Prophylactic Quinolone Prescription Patterns Related to Febrile Neutropenia in Cancer Chemotherapy Outpatients	Gan To Kagaku Ryoho. 2020 Mar;47(3):441-444.	Original article
121	Tanaka Midori, Harada Taku	卒後臨床研修センター	Koplik spots in measles	Postgrad Med J. 2019 Aug;95(1126):454.	Original article

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容	
①審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について	
②審査申請のための事前準備について	
③審査申請に必要とされる書類について	
④申請書類の作成について（参照すべき指針を含む）	
⑤申請から審査・承認までの流れについて	
⑥申請から研究実施までのフローチャート	
⑦研究計画の経過報告及び終了報告について	
⑧重篤な有害事象及び不具合への対応について	
⑨研究計画に伴って発生した苦情の窓口について	
⑩昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 ①利益相反の定義 ②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年21回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 臨床研究を実施するために必要な倫理指針および知識等について教育を行っている。 ①「臨床試験実施の倫理的基本事項」について ②「臨床研究実施計画書の書き方概説」について ③「特定臨床研究実施」について ④「個人情報保護法」について ⑤「利益相反」について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修終了後、各科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。
とくに内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修終了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例すべての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	184人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	准教授	23年	
矢嶋 宜幸	リウマチ・膠原病内科	准教授	21年	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	31年	
本田 浩一	腎臓内科	教授	28年	
吉田 仁	消化器内科	教授	32年	
中牧 剛	血液内科	教授	38年	
新家 俊郎	循環器内科	教授	27年	
富田 英	小児循環器内科	特任教授	41年	
小野 賢二郎	脳神経内科	教授	22年	
角田 卓也	腫瘍内科	教授	31年	
時松 一成	感染症内科	准教授	30年	
岡本 健一郎	緩和医療科	特任教授	40年	
武井 秀史	呼吸器外科	教授	27年	
宮原 義典	小児心臓血管外科	准教授	21年	
青木 淳	心臓血管外科	教授	35年	
青木 武士	消化器・一般外科	准教授	26年	
村上 雅彦	食道外科	教授	38年	
中村 清吾	乳腺外科	教授	37年	
渡井 有	小児外科	教授	30年	
水谷 徹	脳神経外科	教授	35年	
稲垣 克記	整形外科	教授	33年	
笠井 史人	リハビリテーション科	教授(員外)	29年	
黒木 和明	形成外科	准教授	30年	
関沢 明彦	産婦人科	教授	30年	
水野 克己	小児科	教授	32年	

小林 一女	耳鼻咽喉科	教授	37年	
小川 良雄	泌尿器科	教授	37年	
扇谷 芳光	放射線科	教授	25年	
伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	25年	
大江 克憲	麻酔科	教授	30年	
小谷 透	集中治療科	教授	33年	
土肥 謙二	救命救急科	教授	33年	
相良 博典(代)	救急診療科	教授	32年	
矢持 淑子	臨床病理診断科	教授	29年	
恩田 秀寿	眼科	教授	20年	
末木 博彦	皮膚科	教授	39年	
岩波 明	精神神経科	教授	34年	
相良 博典(代)	東洋医学科	教授	32年	
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	37年	
山口 麻子	歯科・口腔外科	講師	25年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 救命救急センター業務研修
2. がん診療に関わる医師に対する緩和ケア研修会
3. がん医療研究会
4. がん医療セミナー
5. NST勉強会
6. 医療機器定期講習会
7. 新人看護師研修会
8. 人工呼吸器実践講習会
9. ローカル講習会（臨床工学室）
10. 医療機器新規導入時研修会
11. ローカル講習会（放射線技術部）
12. MRI 実地訓練
13. 新人看護師研修会
14. プリセプター研修
15. チームリーダー研修
16. 新人教育責任者研修
17. 2年目研修
18. 看護師中途採用者・学内異動者研修
19. ナースヘルパー研修
20. クリニカルラダー別研修（eラーニング 除く）
21. 新任係長研修

・研修の期間・実施回数

1. 1日～20日・年11回
2. 1日～2日・年2回
3. 1日・年1回
4. 1日・年3回
5. 1日・年3回
6. eラーニング・年2回
7. 1日・年1回
8. 6日・年6回
9. 10日・年10回
10. 1日・年8回
11. 1日・年2回
12. 23回
13. 1日・年18回
14. 半日・年1回、1時間・年3回
15. 1時間・年4回
16. 半日・年1回、1.5時間・年1回
17. 半日・年1回
18. 1日・年1回
19. 1日・年3回

- 20. 1時間・年31回
- 21. 半日・年1回
- ・研修の参加人数
 - 1. 108人
 - 2. 58人
 - 3. 35人
 - 4. 63人
 - 5. 140人
 - 6. 2750名
 - 7. 128名
 - 8. 158名
 - 9. 205名
 - 10. 222名
 - 11. 83名
 - 12. 117名
 - 13. 124名
 - 14. 123名
 - 15. 91名
 - 16. 29名
 - 17. 42名
 - 18. 5名
 - 19. 165名
 - 20. 1,315名（延べ人数）
 - 21. 8名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
 (注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 相良 博典	
管理担当者氏名	管理課長 佐々木 真、クオリティマネジメント課長 秋山 好司 医事入院課長 小川 孝行、医事外来課長 村田 久子	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第二項に掲げる事	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	管理課
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事入院課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事入院課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事外来課、医事入院課
	に掲げる事項 規則第一条の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部門	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部門	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部門
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部門
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 相良 博典		
閲覧担当者氏名	管理課長 佐々木 真 クオリティマネジメント課長 秋山 好司 医事入院課長 小川 孝行 医事外来課長 村田 久子		
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課等		
閲覧の手続の概要	病院長宛ての依頼文書に基づき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡を行い閲覧を実施する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 趣旨 2) 基本的な考え方 3) 適用範囲 4) 主管部署 5) 医療安全に係る職員の責務 6) 用語の定義 7) 医療安全管理の為の体制確保 8) 医療安全に係る管理者の配置 9) 医療事故等の院内報告制度 10) 医療事故発生時の対応 11) インシデントの分析や症例検討の実施及びその対策 12) 医療安全管理に係る検収 13) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 14) 医療安全情報の非開示 15) 患者からの相談への対応 16) その他の医療安全の推進に必要な基本方針 17) 医療安全体制の監査 18) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：医療事故等の防止、安全管理体制の確保</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 活用しようポケットマニュアル 2) 医療安全管理体制について 3) 医療機器安全管理（除細動器）について 4) 医療の質・安全向上のための第3者評価について 5) 医療事故調査制度について 6) 医療機器安全管理（除細動器・パルスオキシメーター）について 7) 医薬品安全管理（薬剤アレルギーの電子カルテ登録）について 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。医療安全管理部門としては、報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が全件閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。そしてテーマ別分科会（月1回・1時間・多職種）のセーフティマネジャーと臨床研修医からなる小グループ）でインシデント防止を目的とした運用案を立案する。運用案はMSM委員会（月1回・1時間・代表セーフティマネジャー等で構成）にてさらに検討される。その結果は医療安全管理・対策委員会に報告される。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な考え方 ● 病院感染防止の体制確保 (委員会・部門・ICT・ASTの設置、神瀬管理者・感染リporter・感染リカーズの配置) ● 病院感染等の院内報告制度 ● 病院感染等の発生時に対応 ● 職員教育(職員研修の実施) ● その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年14回 (内2回は臨時)
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査 ● 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワチプカラムの推進、接触者検診の検討 ● 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告 ● ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告 ● 講習会の開催案内 ● マニュアル、指針、委員会規程の見直しと改訂について検討 ● 厚生労働所や東京都からの法令改定、通知、感染症情報の共有 ● アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有 ● 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告 ● 手洗いキャンペーンの実施 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 針刺し・血液体液暴露について ● 抗菌薬の適正使用について ● 抗菌薬の適正使用について② ● 注意が必要な微生物 ● 標準予防策とアウトブレイク事例 ● 肺炎の検査と治療 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談を行う。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 医薬品安全管理に関するオリエンテーション（新規採用医師対象） 医薬品安全管理に関するオリエンテーション（新規採用看護師対象） e-ラーニング：薬剤アレルギーの電子カルテ登録について（全員対象） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し、実施状況を確認。問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に1度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 未承認薬： 標準治療がすべて終了した進行乳癌患者に対するアレプリシブ 難治性円形脱毛症に対する squaric acid dibutylester (SADBE) による局所免疫療法 など 適応外使用 ニボルマブによる薬剤性肝障害に対するミコフェノール酸モフェルチル・タクロリムスの投与 緑内障における濾過手術への0.04%マイトマイシンC眼科用液の使用 小児における成長ホルモン分泌刺激試験（インスリン・L-DOPA・クロニジン・グルカゴン）など ・ その他の改善のための方策の主な内容： 注射剤希釈方法の統一化 ハイアラート薬の選定の見直し 電子カルテ、スタッフ参照画面での薬品毎の注意コメントの表示 散剤・オーダ入力単位のmg（成分量入力）への統一 など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年36回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器定期講習会 ・ MRI学習プログラム ・ 新人看護師研修会 ・ 人工呼吸器実践講習会 ・ ローカル講習会 ・ 医療機器新規導入時研修会 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ メーカー推奨の定期点検 ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 ・ 人工呼吸器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 閉鎖式保育器 ・ リニアック など
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ PMDA及びメーカーからの安全性情報の収集 ・ 医療機器安全NEWSの発行 ・ 医療機器安全管理責任者による定期巡視

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【各種情報の整理】：薬剤部医薬品情報室にて集約、整理される。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】：薬剤部医薬品情報室担当者より随時報告される。医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知を医薬品情報室に依頼。医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部医薬品情報室にて毎日行われるミーティングに出席し共有。また毎日のインシデント事例報告より情報収集。以上の中から対策が必要と判断した場合は対策の立案と実施。</p> <p>【院内周知】：DI ニュースを月に2回発行。また、必要に応じてトピックス等を作成し発行。</p> <p>また、医療安全ニュース（最低月1回）にて発信する場合もある。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>情報の整理・報告は同上の通り。使用に関する相談等あった場合はまず代替案・代替治療の検索と提案。無い場合には委員会への申請の必要性を判断し、必要なら申請を依頼。その間に妥当性・有効性、安全性・経済性の観点から情報を収集整理する。以上を随時、医薬品安全管理責任者へ報告。それを情報のひとつとして委員会にて判断を行う。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 : 無作為抽出による診療録監査を実施して、診療録の記載内容を確認する。管理者巡視の場で報告・指導する。また、報告書を病院運営委員会に提出し周知する。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（4）名、専任（4）名、兼任（15）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： (1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備に関すること。 (2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価に関すること。 (3) 医療事故に関する報告窓口業務に関すること。 (4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。 (5) 医療事故等の原因究明及び診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認を行うとともに必要な指導を行うこと。 (6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底業務。 (7) 医療安全に関する連絡調整に関すること。 (8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導に関すること。 (9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明等の対応状況を確認し必要な指導を行うこと。 (10) 所管する会議等の資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務に関すること。 (11) 訴訟に関する業務(事務) (12) 当該事故関係医療従事者を支援すること(精神的サポート体制) 	

(13) 院内の全死亡事例の監査

(14) 内部通報窓口の運用に関すること。

(15) 高難度新規医療技術の評価及び管理（運用については別に定める）。

(16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理（運用については別に定める）。

(17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資すること。

(18) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスを行うこと：定例会

(19) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例については症例検討会を行うこと。

(20) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（13件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・ 活動の主な内容：

(1) 高難度医療技術の新規導入に関する適否等の評価及び管理

(2) 高難度医療技術の新規・変更申請窓口業務

(3) 高難度医療技術を適用した全症例の管理

(4) 高難度新規医療技術評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（18件）、及び許可件数（18件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

- ・活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理
 - (2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務
 - (3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理
 - (4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 517 件
 - ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 35 件
 - ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 原因の分析及び再発防止策を立案し、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：久留米大学病院）・無）
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：久留米大学病院）・無）
 - ・技術的助言の実施状況
- 1) 手術時以外のタイムアウトを実施する項目として、どのような時に行うのか特に重要な処置・検査などが確認できなかった。左右誤認防止などの観点から検討するとよい。
→同意書が発生する手術、検査、処置についてタイムアウトを実施する提案があったことから運用を検討していく。

2) 院内の医療機器に関連する業務は年々増加する一方で、臨床工学技士の人数は変わっていない為、適正な人材確保を行ってほしい。

→臨床工学技士の人材確保については日本医療評価機構でも医療の安全と質の確保の為に求められている傾向にある。このため、人材確保に努めていきたい。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）

2) 投書箱

相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長と院内責任者へ報告する。内容によっては各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記③「医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」に記載の通り

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】2019年10月27日～10月28日

2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療安全管理責任者】2020年2月12日

2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医薬品安全管理責任者】2019年10月27日～10月28日

2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療機器安全管理責任者】2019年10月27日～10月28日

2019年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師であること (2) 心身ともに健全にして人格高潔であること (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な素質及び能力を有すること (4) 医療の高度の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること (5) 診療及び臨床教育・研究に関しての識見を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 昭和大学病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
小口 勝司	学校法人昭和大学理事長	○	理事長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
小川 良雄	昭和大学医学部長		医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
相良 博典	昭和大学内科学講座 呼吸器アレルギー内科学 部門教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
村上 雅彦	昭和大学外科学講座 消化器一般外科学部門教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
大嶽 浩司	昭和大学麻酔科学講座教授		医学部教授会から選ばれた教授3名の内1名	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
三邊 武幸	学校法人昭和大学理事		理事会から推薦された理事1名以上	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
越石 孝一	一般社団法人日本私立医科 大学協会監事		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
成田 光男	荏原七丁目町会会長 品川区荏原第二地域 センター管区区政協力委員		理事会から推薦された外部有識者2名の内1名	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院 管理会議構成員

No.		職種	役職	委員長
1	三邊 武幸	医師	理事	
2	上條 由美	医師	理事	
3	相良 博典	医師	病院長	◎
4	稲垣 克記	医師	病院長	
5	小林 洋一	医師	副院長	
6	村上 雅彦	医師	副院長	
7	吉田 仁	医師	副院長	
8	大江 克憲	医師	副院長	
9	荒川 千春	看護師	看護部長	
10	佐々木 忠徳	薬剤師	薬剤部長	
11	田口 彰彦	事務員	事務部長	
12	佐々木 真	事務員	管理課長	
13	小川 孝行	事務員	医事入院課長	
14	村田 久子	事務員	医事外来課長	
15	布村 順一	事務員	東病院管理課長	
16	秋山 好司	事務員	クオリティマネジメント課長	
17	田口 美保	看護師	看護部次長(陪席)	
18	村岡 真輔	事務員	管理係長(陪席)	
19	小林 達彦	事務員	学校法人昭和大学総務部総務課長(陪席)	

病院運営委員会 委員名簿

No	委員長	氏名	職位	職種
1	◎	相良 博典	病院長	医師
2		稲垣 克記	東病院長	医師
3		小林 洋一	副院長	医師
4		村上 雅彦	副院長	医師
5		大江 克憲	副院長	医師
6		吉田 仁	副院長	医師
7		田中 明彦	准教授	医師
8		矢嶋 宣幸	准教授	医師
9		山岸 昌一	教授	医師
10		本田 浩一	教授	医師
12		中牧 剛	教授	医師
13		新家 俊郎	教授	医師
14		小野 賢二郎	教授	医師
15		角田 卓也	教授	医師
16		時松 一成	准教授	医師
17		岡本 健一郎	教授	医師
18		岩波 明	教授	医師
19		武井 秀史	教授	医師
20		青木 淳	教授	医師
21		青木 武士	准教授	医師
22		中村 清吾	教授	医師
23		渡井 有	教授	医師
24		水谷 徹	教授	医師
25		清水 克悦	教授	医師
26		豊根 知明	教授	医師
27		笠井 史人	教授	医師
28		黒木 和明	准教授	医師
29		関沢 明彦	教授	医師
30		松本 光司	教授	医師
31		恩田 秀寿	教授	医師
32		水野 克己	教授	医師
33		小林 一女	教授	医師
34		末木 博彦	教授	医師
35		渡辺 秀晃	教授	医師
36		小川 良雄	教授	医師
37		扇谷 芳光	教授	医師
38		伊藤 芳紀	教授	医師
40		加藤 里絵	教授	医師
41		小谷 透	教授	医師
42		土肥 謙二	教授	医師
43		矢持 淑子	教授	医師
44		福地 邦彦	教授	医師
45		山口 麻子	講師	歯科医師
46		富田 英	教授	医師
47		石野 幸三	教授	医師
48		宮原 義典	准教授	医師
49		嶋根 俊和	教授	医師
50		山村 冬彦	准教授	医師
51		尾本 正	准教授、総括診療科長補佐	医師
52		荒川 千春	看護部長	看護師
53		田口 美保	看護部次長	看護師
54		佐々木 忠徳	薬剤部長	薬剤師
55		佐藤 久弥	放射線技術部長	診療放射線技師
56		島居 美幸	栄養科責任者	管理栄養士
57		大石 竜	臨床工学室技士長	臨床工学技士
58		家泉 桂一	臨床検査室責任者	臨床検査技師
59		田口 彰彦	事務部長	事務員
60		佐々木 真	管理課長	事務員
61		秋山 好司	クオリティマネジメント課長	事務員
62		小川 孝行	医事入院課長	事務員
63		村田 久子	医事外来課長	事務員
64		布村 順一	東病院管理課長	事務員
65		笠井 龍	施設部施設課 係員	事務員
66		内田 裕司	財務部担当課長	事務員
67		村岡 真輔	管理課係長	事務員
68		佐々木 玲奈	管理課主査	事務員
69		佐藤 駿太	管理課主査	事務員

※構成員の2/3以上の出席で開催。
 ※議決は出席者の1/2で議決。

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
昭和大学病院ホームページ

- ・ 規程の主な内容
病院長は、理事長及び担当理事から次の各号に掲げる権限の委譲を受け、病院の管理に関する業務を統括し、責任を有する。
 - (1) 経営に関すること
 - ア 事業計画、予算の立案及び執行
 - イ 収支の掌握及び改善
 - (2) 診療に関すること
 - ア 診療体制及び診療科の管理
 - イ 患者サービス
 - (3) 医療安全・感染管理に関すること
 - (4) 病院の業務管理に関すること
 - (5) 病院職員の教育・研究に関すること
 - (6) 人事管理に関すること
 - (7) コンプライアンスに関すること
 - (8) その他病院の管理・運営に必要なこと

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
4名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。
(医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、保険診療、職員教育研修 等)

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）令和1年10月27日・28日

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。 理事長又は病院長に是正措置を講ずるよう意見する。 監査結果をホームページで公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</p> <p>・ 公表の方法：ホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院病院長		医療に関する学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
附属病院機能評価調査委員会にて定期的に附属病院の評価・指導を
- ・ 専門部署の設置の有無 (・無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院担当理事協議会とは別に病院長は執行役員として理事会に陪席し、病院業務に係る体制強化を実施している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院担当理事協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

病院担当理事協議会 委員名簿(2020年度)

No.		委員長	利害関係
1	小出 良平 学校法人昭和大学総括病院担当理事	◎	有
2	小口 勝司 学校法人昭和大学理事長		有
3	久光 正 昭和大学学長		有
4	三邊 武幸 昭和大学病院・東病院担当理事		有
5	眞田 裕 藤が丘病院・リハビリ病院・北部病院担当理事		有
6	上條 由美 江東豊洲病院・豊洲クリニック・烏山病院担当理事		有
7	禎 宏太郎 歯科病院担当理事		有
8	小川 良雄 統括看護部担当理事		有
9	相良 博典 昭和大学病院長(陪席)		有
10	稲垣 克記 昭和大学病院附属東病院長(陪席)		有
11	高橋 寛 昭和大学藤が丘病院長(陪席)		有
12	市川 博雄 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院長(陪席)		有
13	門倉 光隆 昭和大学横浜市北部病院長(陪席)		有
14	笠間 毅 昭和大学江東豊洲病院長(陪席)		有
15	岩波 明 昭和大学附属烏山病院長(陪席)		有
16	馬場 一美 昭和大学歯科病院長(陪席)		有
17	小玉 敦司 学校法人昭和大学事務局長(陪席)		有
18	田口 彰彦 学校法人昭和大学統括病院事務部長(陪席) (昭和大学病院事務部長)		有
19	佐々木 真 昭和大学病院管理課長(陪席)		有
20	菅 秀彰 昭和大学病院管理課係長(書記)		有

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 院内ポケットマニュアル (常時携帯) への記載。回覧文書、委員会での周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>・ 病院機能評価 公益財団法人 日本医療機能評価機構 (救急医療機能含む)</p> <p>※2015年3月6日認定</p> <p>・ 臨床研修評価 NPO法人 卒後臨床研修評価機構</p> <p>※2019年1月1日認定</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が1人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。</p>	

(様式第 8)

2 昭 大 病 発 第 25 号
令和 2 年 9 月 28 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 昭和大学
理事長 小口 勝

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

【管理者】

2020 年 11 月 11 日（水）「2020 年度特定機能病院管理者研修」

【医療安全管理責任者】

2020 年 12 月 10 日（木）「2020 年度特定機能病院管理者研修」

【医薬品安全管理責任者】

2020 年 12 月 10 日（木）「2020 年度特定機能病院管理者研修」

【医療機器安全管理責任者】

2020 年 12 月 16 日（水）「2020 年度特定機能病院管理者研修」

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置